

# 博士論文データベースを通して見る女性学/ジェンダー研究の40年

内藤 和美

## 1. はじめに

女性学・ジェンダー研究（以下、WS/GS とする）の知を集積して活用にあずかる資源に1つを加えることを目的に、また、そこに日本のWS/GSのアイデンティティが蓄積されていくようにとの意をも含んで構築し、2012年8月の公開を経て個人で管理運営してきた「女性学/ジェンダー研究博士論文データベース」（以下、WSGSDDDB とする）は、2017年9月に、認定特定非営利活動法人ウイメンズ アクション ネットワーク Women's Action Network（以下、WAN とする）に移管された。

本稿では、823本（2018年7月末現在）のWSGSDDDB登録論文の情報を切り口に、日本のWS/GSの40年間の蓄積を示すとともに、WAN移管によって共同化・公共化が進んだことによるデータベースの今後の活用可能性の拡大について記したい。

## 2. WSGSDDDB 構築の背景と経緯

WSGSDDDBを構築したことの背景となったことが2つある。

1つは、日本のWS/GSの発展経緯に由来する強みとやや不利な面についての認識である。〈日本では1970年代後半に始動した女性学、そこから展開し、1980年代後半に研究が本格化したジェンダー研究は、学問領域、学部・学科等、輪郭づけられたDisciplineを形成するというより、あらゆる学問に視点・課題認識を持ち込む形で発展してきた。そうした発展のしかたは、既存の知への批判的立ち位置の保持、DisciplineよりIssueまたは目的志向の超領域性といった強みを形づくる一方、既存の学問に比べて、知の集約・集積、ポストの獲得、担い手育成等の面で不利な面があった〉という認識である（内藤2014:147）。

なお、従来、WS/GS特徴として、しばしば「学際性」という語が用いられてきた。しかし、90年代後半来「複数の学問体系が共同で研究を行う」「多学問領域性」(multi-disciplinary)、「複数の学問体系の相互作用により、新たな知」を創成する「学際性」(inter-disciplinary)、「複数の学問体系に及ぶ新しい専門分野が生成する」「領域横断性」(cross-disciplinary)および「諸学問の知見を相互にかつ自由に節合し学問自体の創造をはかる」「超領域」または「超学問領域」性(trans-disciplinary)が使い分けられるようになってきた（赤司1996、池田1997、大場1999:183）。これに即すと、WS/GSが志向してきたのは、「特定の研究テーマに即して下位領域の知見が高い 自由度をもって動員され、既存の学問領域の垣根を取り払うことが前提とされ」、「研究テーマに即して学問が新たに編制される」（大場）「超領域性」であると解される。そこで、本稿では「超領域性」を用いることとする。

2007～2009年ころ、日本の女性学の立ち上げと発展に大きな役割を果たしてきた、いわゆる女性学4団体（国際ジェンダー学会、日本女性学会、日本女性学研究会、女性学研究会）が相次いで発足30年を迎えた。30周年を記念して、シンポジウムの開催、雑誌の特集、本の出版等の取り組みがあった（表1）。これが2つ目の背景である。30年を振り返り、できごとや活動や数字が跡付けられ、記述され、課題や展望が議論された。

これらイベントや出版に関わり・接する中で、30年間に創出され蓄積された日本のWS/GSの知の実質・アイデンティティはどのようなものなのだろうか？と考えるようになった。課題認識、分析や理論化のパラダイムといった“製造装置”ではなく生み出された知、そして、個々の研究の成果というより、集積され、相互に作用し合って日本のWS/GSの知を成す中身である。多くの場合、個々の研究がそれを名乗って行われるわけではないが、視点、立脚点を異にする女性学とジェンダー研究の知の違いも気になっていた。こうしたことをどうしたら探究できるかを考えた末、WS/GSとしての内容をもつ博士論文を集めてみようと思った。「博士論文は、審査と学位授与によって研究の独創性と知見の新規性が認められており」、そこにWS/GSの知の生産過程と生産物の実が表わされていると考えたからである。

表1 日本の女性学発足30年を画したシンポジウム開催、出版等

シンポジウム等の開催			
主催者	テーマ	会合名	開催年
日本女性学研究会	「未来へつなぐ女性学」～十人十色、「私」の30年をふり返る	日本女性学研究会30周年記念女性学/ジェンダー研究フォーラム in2007	2007
国際ジェンダー学会	30周年記念シンポジウム 1970年代後半以降の女性運動と女性学/ジェンダー研究	国際ジェンダー学会200年大会	2008
日本女性学会	日本女性学会設立30周年記念特別企画 今ジェンダーの視点で問い直す貧困と労働	日本女性学会2009年大会	2009
出版			
編/著者	書名/論文名	出版社/雑誌名巻号	開催年
日本女性学研究会	小特集 日本女性学研究会30周年によせて—わたしとWSSJ、そして—	女性学年報, 第28号	2007
女性学研究会	女性学をつなぐ	新水社	2009
日本女性学研究会	特集『女性学年報』に寄せて～歴代編集委員・執筆者・読者から	女性学年報, 第30号	2009
日本女性学研究会	日本女性学研究会30周年記念女性学・ジェンダーフォーラム in 2007	女性学年報, 第30号	2009
田中かず子	実践的な学問としての女性学が独自の学際的基盤を構築するために	女性学, 第17号	2009
江原由美子	女性学30年の歩み—「社会変化」との関連で	女性学, 第17号	2009

しかし、該当論文を把握し、収集することは容易でなかった。特定の学位種別で把握・収集しきれないことは明らかである。博士（女性学）や博士（ジェンダー学/研究）がないのはもちろん、学位種別は、しばしば論文提出先の研究科に規定され、把握の手がかりにはならない。敏感度と特異度がともに高いキーワードを探すことを中心に、試行錯誤を経て、収集対象論文と検索キーワードを次のように設定した。

### 【収集対象論文】

- ①国内大学で博士の学位を授与され、国立国会図書館博士論文書誌データベース（以下、CiNii Dissertationsとする）に登録されている、または、海外大学で博士の学位を授与され、国内で著書や論文として公刊されており、

②要旨の閲覧等により、性差別の撤廃・ジェンダーバイアス解消の課題認識を含むことが確認される論文（内藤 2014:149）。

「性差別の撤廃・ジェンダーバイアス解消の課題認識を含む」とは、以下のよう  
な要素を含む認識とした。

- ・性別は本来多様だが、社会的には、女性/男性の2カテゴリーが設定されている
- ・社会資源＝社会的力の、男性カテゴリーへの偏在を結果する、性別分業の慣習・通念をはじめとする社会的文化的構造がある
- ・個々人は、こうした社会構造の中に置かれ、その影響を受ける
- ・社会的に、人生が性別に左右される・性別の影響を受ける状態は、人生が人種に左右されてはならないのと同様、人権の観点から不合理である
- ・こうした社会構造を変革し、性別がどうであれ、個々人がその人として能力の開発発揮機会を得、行動を選択し、その人として生きて行ける社会を志向する。

#### 【検索キーワード】

公開当初、もちろんこれらに限られないが、相対的に敏感度と特異度がともに高いキーワードとして以下を設定した（表 2-1）。

表 2-1 WS/GS 博士論文の検索キーワード(2012 年公開当初)

家父長制	権利	ジェンダー
女子教育	女性	性別分業
男女共同参画	男女平等	男性学
フェミニズム	婦人教育	婦人参政権
労働	〔研究者名〕	

(内藤 2014,p149)

なお、その後経験を積み、また、2013 年度の「学位規則」第 8 条・9 条の改正によって、要旨や本文の確認が格段に容易になったことが転機となって（次項 3.）（文部科学省 2013）、徐々に検索語を拡げつつ、対象論文を探し当てられるようになった。現在は、表 2-2 の語を目安としている（表 2-2）。

### 3. 収集した博士論文情報のデータベース化

〈論文情報が増えるに伴い、このまま抱え込んでいては所詮個人的資料を超えないが、データベース化して公開すれば、日本の WS/GS の公共資源として多くの人に活用してもらえる、やや不利な面があった知の集積蓄積を補う一つになるのではないかと考えるようになった。情報専門機関および WS/GS の専門機関計 3 箇所に、収集した論文情報を提供するのでデータベース化し、公共利用に供してもらえないか相談したが叶わなかった。学術情報データベースは機関・組織が開設運営してこそ活用され得ると思ったからだ（内藤 2014:146）。その  
目途が立たない中、約 300 論文の登録情報を整備した時点で、公共性拡大を爾後の課題と

表 2-2 WS/GS 博士論文の検索キーワード(2018 年現在)

育児	LGBT	家族
家父長制	クィア	ゲイ
ケア	結婚	ジェンダー
出産	主婦	少女
女子	女性	人権
ストーカー	生殖	性同一性障害
性犯罪	性別分業	セクシュアリティ
男女	男性	父
DV	同性愛	妊娠
バイオレンス	買売春	母
ハラスメント	フェミニズム	婦人
暴力	ポルノ	マイノリティ
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ		レズビアン
		[研究者名]

してデータベース構築を決断した。あらためて、WS/GS の知を集積して活用に供する資源に 1 つを加え、まとまった研究情報入手の一助となること（日本の WS/GS のアイデンティティの蓄積先の 1 つとなる）ことを意義・使命と認識し、2012 年 3 月に 343 論文を初期データとする WSGSDDB の設計と Web サイト開設を業者委託し、検討・試行を経て、同 8 月 1 日に Web 上に公開した。

データベース化にあたっては、どのような情報が研究者・学習者にとって有用かを考え、CiNii Dissertations の書誌情報に加え、所蔵先リポジトリにおける各論文の本文/要旨の収録先 URL と、論文が図書として出版されていたり一部が学術雑誌に掲載されている場合にはそれら公刊物の情報を収録することにした（表 3）。

翌 2013 年には「学位規則」（第 8 条・9 条）が改正され、学位論文の要旨および全文の公表がそれまでの「印刷公表」から「インターネットの利用による公表」に変更された（文部科学省 2013）。これにより、要旨、本文へのアクセス・確認が格段に容易になり、該当論文の把握・登録が加速した。

表 3 WSGSDDB の登録項目

書誌 ID	学位所得者／よみ(カナ)／よみ(英字)
性別	所属(登録時)
タイトル／よみ(カナ)	言語
学位取得大学名／機関コード	取得学位分野／コード
報告番号／コード	学位授与年
機関リポジトリ／URL	検索先データベース
公刊形／図書雑誌論文の別／タイトル／出版社／出版年／雑誌名／巻号・頁	

#### 4. WAN への移管によるデータベース管理運営の共同化～公共化

当初より、公共の資源である博士論文情報のデータベースの運営を個人で行うことは、持続可能性・安定性、活用のリーチ、社会的信用等さまざまな面で限界があり、軌道に乗り次第、WSGSDDDB の管理運営を私的活動から共同の活動に、多くの人によって維持され活用されるものへと転換していかねばという課題を負っていた。(独法) 国立女性教育会館女性教育情報センターと WAN のウェブサイトリンクを張ったのみの 4 年を経て、2016 年、WAN にデータベースの移管を相談、WAN の意思決定過程、サーバー移動等の手続きを踏み、2017 年 9 月に、735 論文を以て移管が実現した。これにより、WSGSDDDB は共同化～公共化へと大きく前進した。

#### 5. 登録論文情報に見る日本の WS/GS の 40 年

##### (1) 登録論文の現況

###### ①学位種別

2018 年 7 月末時点の登録論文 823 本の概要として、まず学位種別は「学術」が圧倒的に多く、ついで「文学」、「社会科学」、「社会学」といった分布になっている。

「学術」の多さは、WS/GS の超領域性の表れと見ることができる。その一方、テーマや内容もさることながら、提出先研究科に規定されている面が大きいと思われる論文も少なくない(表 4.)。

表 4. 登録論文の学位種別の分布

学位種別	件数	%
学術	161	19.6
文学	117	14.2
社会科学	77	9.4
社会学	73	8.9
教育学	56	6.8
人文科学	40	4.9
経済学	38	4.6
法学	33	4.0
人間科学	21	2.6
農学	13	1.6
比較文化	13	1.6
心理学	12	1.5
経営学	11	1.3
商学	11	1.3
他 74 種	147	17.9
計	823	100.0

###### ②学位授与機関

学位授与機関の分布は表 3 の通りで、お茶の水女子大学が群を抜いている(表 5.)。

###### ③学位授与年

学位授与年の分布は図 1. の通りで、もっとも古い登録論文「女性の地位の規定要因についての研究」は 1962 年のものである。1995 年以降、WS/GS に当たる学位論文の産出が本格化したことが伺え、2005 年以降は、ほぼ年間 50 本前後が新規に登録されてきている。2015 年以降の論文が少ないのは、各機関でのリポジトリへの学位論文の格納、国立国会図書館への報告、国立国会図書館での書誌情報の登録に時間がかかるからで、これから増えてくると考えられる(図 1.)。

## (2) 検索語に見る動向

登録対象論文把握の手がかりは、基本的に検索語である。表 6. は、把握の契機となった検索語である。823 論文の半分近くが「女性」によって、約 1/3 が「ジェンダー」によって検索され、この 2 語が群を抜いている (表 6.)。「女性」および「ジェンダー」による初期および直近の論文標題を表 7., 8. に示した (表 7., 表 8.)。

図 2. は、「女性」366 論文と「ジェンダー」261 論文の学位授与年の分布である。性別カテゴリー「女性」による博士論文は、1962 年度を皮切りに 1980 年代から書かれている。

「ジェンダー」による論文の登録は 1995 年に始まり、2000 年から増えている。この頃、ジェンダーが分析概念として普遍化、成熟したことが伺える (図 2.)。

表 9., 10. は、検索語「女性」および「ジェンダー」による論文の学位種別の分布である。「女性」による論文の学位種別分布は登録論文全体と同様の傾向である一方、「ジェン

表 5. 登録論文の学位授与機関の分布

機 関	件数	%
お茶の水女子大学	134	16.3
東京大学	44	5.3
大阪大学	43	5.2
名古屋大学	43	5.2
京都大学	29	3.5
東北大学	25	3.0
奈良女子大学	24	2.9
早稲田大学	24	2.9
筑波大学	21	2.6
広島大学	20	2.4
慶応義塾大学	19	2.3
一橋大学	18	2.2
首都大学東京/東京都立大学	17	2.1
九州大学	15	1.8
神戸大学	13	1.6
城西国際大学	13	1.6
同志社大学	13	1.6
立命館大学	13	1.6
日本女子大学	12	1.5
北海道大学	12	1.5
関西学院大学	11	1.3
昭和女子大学	10	1.2
立教大学	10	1.2
他	240	29.2
計	823	100.0

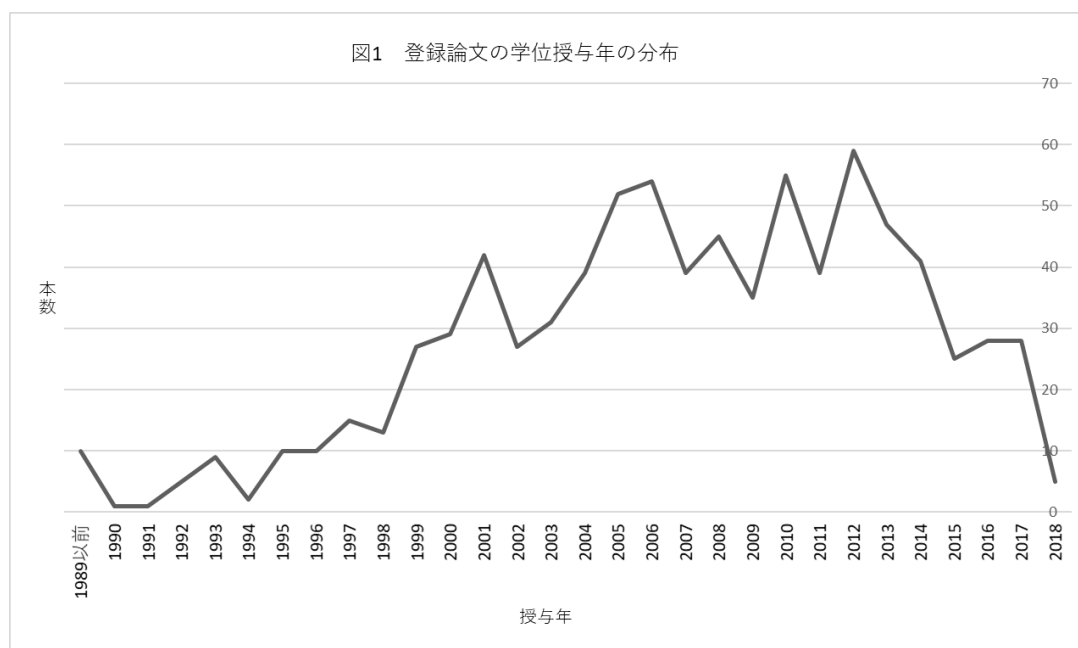


表 6. 把握の手がかりとなった検索語の分布(重複計上含む)

検 索 語	件数	%
女性	366	44.5
ジェンダー	261	31.7
家族	52	6.3
女子	35	4.3
SOGI の多様性関係－性的マイノリティ、クィア、レズビアン、ゲイ、同性愛、性同一性障害、LGBT、セクシュアリティ	34	4.1
母	31	3.8
フェミニズム	31	3.8
男女	25	3.0
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、妊娠、生殖、出産	25	3.0
暴力、バイオレンス、DV、性犯罪、ハラスメント、売買春	21	2.6
平等	20	2.4
男性	19	2.3
結婚	16	1.9
父	15	1.8
育児	12	1.5
開発	11	1.3
宗教	11	1.3
婦人	10	1.2
介護	8	1.0
ケア	8	1.0
主婦	8	1.0
性役割	8	1.0
人権	6	0.7
性別(役割)分業	6	0.7
少女	5	0.6
		他

ダー」は、「文学」が最多で、全体および「女性」とは異なる傾向である（表 9., 表 10.）。

初期から出現する「女性」や「家族」、1995 年から出現する「ジェンダー」等に対し、2005 年から検索されるようになり、以降数を増してきているのが「セクシュアル・マイノリティ」「LGBT」「ゲイ」「レズビアン」「同性愛」等 SOGI の多様性に関する論文と、暴力に関する論文である。表 11., 12. に、直近の SOGI の多様性に関する論文、および暴力に関する論文の標題を示す（表 11., 12.）。

なお、「男女共同参画」を冠する論文は、「男女」により検索された論文中 3 本である。「男女共同参画」は分析概念というより行政用語であることの証左と受け取れる。

表 7. 検索語「女性」により把握された、初期および直近の博士論文

【初期の登録論文】

標 題	授与年	学位種別
女性の地位の規定要因についての研究	1962	文学
女性解放思想史	1980	法学
既婚婦人のパートタイムの就労の社会と家庭における位置づけ	1986	学術
現代女性のスポーツ参与を規定する社会的要因に関する研究：奈良市における既婚女性を中心に	1988	教育学
両対戦間期の女性運動	1989	文学
日本人若年女性層における意識：とくに気がねと被服行動に関する研究	1989	学術

【直近の登録論文】

標 題	授与年	学位種別
日本の女性運動：1970年代から何が引き継がれたのか	2018	社会学
結婚に関わる意識と女性の社会経済的地位—計量分析を通して	2018	文学
戦後日本の農村女性政策における〈農村女性〉の構築過程—エンパワメントの批判的検討を通して—	2018	農学
未就学児をもつ女性の就業と家庭生活に関する実証的研究：都市部高学歴女性の課題に着目して	2017	学術
「韓流」をめぐる女性たちの文化実践：日本女性ファンのオーディエンス・エスノグラフィーを用いて	2017	学術
「満洲国」を生きた日本人女性の文学	2017	文学
伝統社会に生きる女性の幸福向上のための開発論：ネパールの旧王都パタンにおけるネワール民族の女性自助組織「ミサ・プツァ」の自発的な活動を事例として	2017	文学
現代女性作家とメディア表象をめぐる日中間横断研究：トランスナショナル・フェミニズムの視座から	2017	文学
女性の就業中断経験は再就職のための資源として活用されるか—海外駐在員妻へのインタビューから—	2017	社会科学
学歴ミスマッチと大卒女性の就業に関する実証分析—日本とオランダの比較を通して	2017	社会科学
韓国における家族計画事業の経験—1960～70年代の農村の女性動員との関連から	2017	人文科学
結婚移住女性のメンタルヘルスと異文化適応に関する臨床心理学的研究	2017	教育学
老年期の女性性に関する心理臨床的論考	2017	教育学
ドイツ連邦共和国東部諸州における労働市場の変化とその政策対応	2017	経済学
中国における企業の統治構造と女性役員・管理職の登用問題	2017	経営学
雑誌『家の光』に見る農村女性における自意識の変化—高度経済成長期における兼業化の進展を背景として—	2017	情報科学



表 8. キーワード「ジェンダー」により検索された、初期および直近の博士論文

【初期の登録論文】

標 題	授与年	学位種別
空間恐怖の精神病理に関する一考察:ジェンダー論的空間分離モデルの試み	1995	医学
組織文化におけるジェンダーロールと女性労働に関する研究	1996	学術
青年期女性の進路形成と教育組織の社会学-ジェンダー・トラックとその社会的機能に関する社会学的研究	1996	学術
家族・ジェンダー・企業社会-ジェンダーアプローチの構築	1997	社会学
開放前中国江南農村におけるジェンダーの研究:婚姻と出産にみる女性の文化、社会的位置づけ	1997	社会学
ジェンダーに関する自己概念の研究 -男性性・女性性の規定因とその機能	1997	社会学
ジェンダーと日本近代文学:明治三十年代から大正中期まで	1997	文学
上座仏教徒社会における宗教実践とジェンダーの構築 -タイの女性修行者メーチャーをめぐって	1997	文学

【直近の登録論文】

標 題	授与年	学位種別
母親の社会関係資本とジェンダー階層再生産	2017	社会学
児童虐待問題への経済階層とジェンダーの視点からの研究	2017	学術
友人同士の自由会話におけるポライトネス・ストラテジー : 同性間の会話からみる日韓差とジェンダー	2017	文学
男たち／女たちの恋愛——近代日本における「自己」のジェンダー化	2017	人間・環境学
Gender and cultural differences in linguistic constructions of identity in Japanese and Polish	2017	比較社会文化
The Open Approach and its Impact on Jamaican Elementary Students' Understanding of Mathematical Concepts in the Number Strand: A Gender and Class Setting Comparison	2017	教育学
Gender Education for Agricultural Extension Workers: “Gender-sensitive Curriculum” in Agricultural Technical and Vocational Education and Training (ATVET) Colleges in Ethiopia	2017	国際開発学

図2 検索語「女性」「ジェンダー」による登録論文の学位授与年の分布

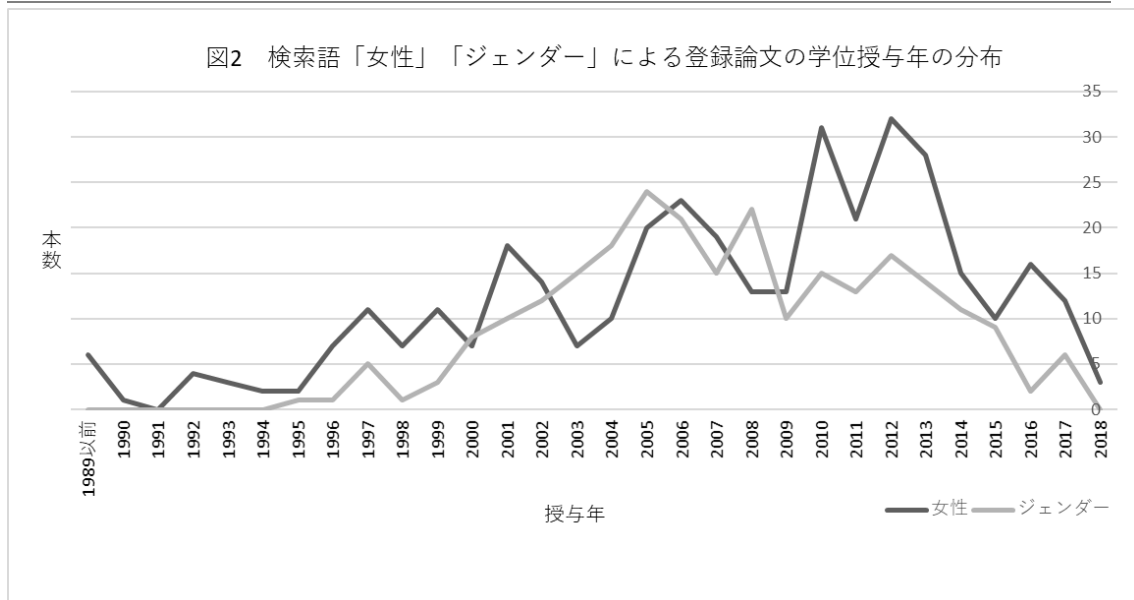


表 9. 検索語「女性」によって把握された論文の学位種別の分布

学位種別	件数	%
学術	72	19.7
文学	44	12.0
社会学	33	9.0
教育学	28	7.7
経済学	28	7.7
社会科学	27	7.4
法学	13	3.6
農学	12	3.3
人文科学	9	2.5
人間科学	9	2.5
経営学	8	2.2
比較文化	7	1.9
国際関係学	6	1.6
工学	5	1.4
商学	5	1.4
政治学	5	1.4
地域研究	5	1.4
他 36 種	54	14.8
計	366	100.0

表 10. 検索語「女性」によって把握された論文の学位種別の分布

学位種別	件数	%
文学	52	19.9
学術	50	19.2
社会学	37	14.2
教育学	15	5.7
社会科学	15	5.7
法学	15	5.7
心理学	8	3.1
経済学	7	2.7
人文科学	7	2.7
人間科学	7	2.7
国際関係学	5	1.9
比較文化	4	1.5
他 28 種	41	15.7
計	261	100.0

表 11. SOGI の多様性に関する検索語により把握された、直近の博士論文

標 題	授与年	学位種別
木下恵介におけるクィアな感性の探求 —1950年代の作品を中心に	2017	人間・環境学
戦後日本における男性同性愛への「寛容」と嫌悪	2016	史学
戦後日本における青少年のセクシュアリティをめぐる言説と管理：性典映画・太陽族映画と映画規制の動向、および警察の非行対策に着目して	2016	文学

表 12. 暴力に関する検索語により把握された、直近の博士論文

標 題	授与年	学位種別
親密なパートナーからの暴力(IPV)関係を終結するか継続するかの決定に関する研究	2017	学術
中国における乳がん患者の経験：身体の変化に伴う暴力の発生	2017	社会学
性暴力と社会関係：個人化される困難と専門家支配をこえて	2016	社会学

### (3) 博士 (学術) 申請論文に見る超領域性

本稿冒頭に、日本の WS/GS が学問領域、学部・学科等、輪郭づけられた Discipline を形成するというより、あらゆる学問に視点・課題認識を持ち込む形で発展してきたことが、既存の知への批判的立ち位置の保持、Issue または目的志向の超領域性といった強みを形づくってきた、という認識を記した。

ここでは、既存の知の批判的超克や、超領域性がどのように結実しているのかを、事例を通じて見てみる。事例として、直近 2017 年 (2016 年度) に、学位種別名がそれを含意ないし示唆している「博士 (学術)」を授与された論文の 1 つ、辻 京子「児童虐待問題への経済階層とジェンダーの視点からの研究」を取り上げる (辻 2017)。

ジェンダーを主な分析軸とした、社会学、社会福祉学、看護学、臨床心理学を跨ぐ研究である。児童相談所の虐待相談受理票の記載内容を入力して作成したデータセットの統計処理による「第一章 児童虐待と経済階層の関連—児童相談所の虐待相談受理データからの考察—」、児童相談所で虐待と判定された母子世帯の母親のインタビューによる「第二章 児童虐待リスクとしての母子家庭 —社会的排除とジェンダーの視点から—」、保健師養成課程で使用されている教科書の児童虐待に関連する記載を分析した「第三章 保健師教育における児童虐待の分析 —ジェンダーの視点から—」、母子保健活動で使用されている虐待リスクアセスメントの分析による「第四章 母子保健分野における児童虐待防止活動とリスクアセスメント」の 4 つの、多くのデータを用いた詳細な実証研究に基づく論文である。

論文は、〈現行の児童虐待防止対策には、「両親揃った中流階層の睦ましい子育て家族」を正当とする家族規範と、子育てを母親の役割とするジェンダ

一規範の影響を受けた認識が組み込まれている。児童福祉、医療、母子保健分野で、虐待防止のために用いられている『児童虐待リスクアセスメント』では、経済基盤の不安定、不就労、母子世帯など、社会政策上の課題が、個人が有するリスク要因として扱われているために、特定の社会的カテゴリーの人々が通告されやすく、虐待と判定されやすい。それらの人々にカウンセリングや心理療法、子どもの一時的保護、養育者への指導が行われる。バイアスを含む認識に基づいて対策が構成されているために、困難の防止と解決支援を通じた社会的包摂を目指して講じられているはずの対策が、特定のカテゴリーの人々にスティグマを負わせ、社会的排除を生んでいる面がある）ことを明らかにしている（辻 2017:2-3, 16-17, 28, 40, 54, 56）。

こうした状況を改善していくために、まず、〈児童虐待防止対策の軸を、「危険な養育者の検出」から、社会保障による子育て支援を通じた子どもの貧困の防止/解消、経済的不安定や保育の不足の社会的解決へと転換していく必要がある〉ことを指摘する。

そして、「家族の問題や弱み」のみに傾注するのはなく、「個々の家族の強み（ストレングス）」、資源、能力にも焦点を当てた総合的なアセスメントに基づき、養育者自身が解決への方途を導きだしていけるよう（対抗ストーリーの描出）、保健師等がサポートしていく、リフレクティブな相互作用、ナラティブ・アプローチを活かした支援支援方法が提案されている（辻 2017:51-54, 57-58）。

輪郭付けられた分野・領域を超え、意識・行動・制度・慣習といった位相を貫く、分析概念「ジェンダー」の強みが十全に発揮された論文と考える。

## 6. WSGSDDDB の今後

### （1）活用可能性の拡大

WAN への移管によって、WSGSDDDB の活用可能性は大きく拡大した。それまでの単独サイトから、WAN のサイト内に置かれたことによって、可視性、研究者のアクセスしやすさが向上し、利用の拡大が見込まれる。そして何より、WAN の活動としてこれを活かしていくことが展望される。登録論文の紹介記事や評論記事の WAN サイト掲載、データベース登録情報を用いた WAN としてのプロジェクト研究の実施、WAN の他の活動と WSGSDDDB を結びつけ・組み合わせた活用等が考えられる。

### （2）今後の課題

一方、WAN 移管後の管理運営上の課題も少なくない。

#### ①論文の把握・情報収集方法の多元化

まず、WS/GS の研究がますますあらゆる課題・領域へと浸透していくであろう今後、抜け落ちのない把握をめざしていくためには、論文の把握・情報収集方法の多元化をはかる必要がある。これまで、国立情報学研究所 CiNii Dissertations、各大学の学術情報リポジトリ等、博士論文の書誌情報や本文・

要旨が収録されたデータベースの検索語による探索を、対象論文把握の主な手がかりとしてきた。探索・把握作業を恒常的に行う中で、WS/GS の実質をもつ博士論文のあらゆる分野、課題への浸透・拡がりを実感している。使用する語を増やしたとしても、検索語に頼った探索・把握はもはや限界で、登録されるべき論文の見落としを防ぐために、学協会と連携した自己申告制の導入をはじめ、他の探索・把握方法の導入、併用に着手する必要がある。

## ②海外の WS/GS 博士論文データベースの管理運営方法の調査・検討

WSGSDDDB の管理運営とくに対象論文の把握収集方法、登録基準の改善に役立つため、海外の、WS/GS 博士論文データベースを探索した。まず、日本では、国立国会図書館が〈前身の一つである帝国図書館に、文部省（当時）が保管していた博士論文が移管された 1935 年以來、1975 年の報告方法の変更、2013 年の公表方法の変更を経て今に至るまで、博士論文を網羅的に収集している〉（国立国会図書館）。それが、WSGSDDDB の活動を可能にしている。〈こうした国立機関による網羅的収集・管理のしくみを採っている国は他にはなく、したがって、博士論文の収集・情報管理は一義的に機関ごとである。大学院の WS/GS 系研究科や、大学の WS/GS 研究所には、WS/GS 主題の博士論文をまとめているところがある〉（国立国会図書館関西分館 2018）。また、海外の博士論文に関する情報は、国立国会図書館「リサーチ・ナビ 海外博士論文（インターネット情報源）」に集約されている（国立国会図書館 2018）。

把握し得た限り、他国の、機関を越えた WS/GS に特化した学位論文データベースには、The National Institute for Health and Welfare, Finland (THL) が公開している、フィンランド国内で公表された、WS,GS, Men's Studies および Gender Equality に関連するテーマの博士論文の情報を収録したデータベース The Dissertation Database がある (THL)。これ以外には、Dissertation / Database / Gender Studies によって、膨大な数の、大学の大学院 WS/GS 研究科のジェンダー研究専攻の Web サイトの、同研究科で学位を授与された論文の年次別一覧頁や (OSU,SFU,U-M,USF 等)、各大学図書館の学術リポジトリの博士論文データベースに設定された、WS/GS のカテゴリーが検索される (UCLA, UM, CSU, SU, UW, UWU 等)。これらのうち、たとえば、ワシントン大学 (UW) 図書館が、ジェンダー、女性およびセクシュアリティ学部 the department of Gender, Women and Sexuality Studies と、セクシュアリティ&クィア研究準修士課程 Graduate Certificate in Sexuality & Queer Studies の学生を対象に提供している、ジェンダー・女性・セクシュアリティ研究 (GWSS) の博士論文および修士論文のデータベース Gender, Women & Sexuality Studies: Dissertations は、複写の図書館への納本が行われていた 2012 年までの GWSS の論文を、次の項目によって検索できるようになっている。

- ・ 著者

- ・ 題名・論文のジャンルまたは分野別見出し

theses GWSS, theses Feminist Theory, theses Queer Theory and Transnational Feminism

・テーマ（キーワードの組み合わせ検索による）

“theses” & “black queer studies”, “theses” & “transgender identity”GWSS, Feminist Theory 等の見出しが付される基準や、black queer studies, transgender identity 等のキーワードが付される基準は突き止め得ていない(University of Washington Libraries (UW))。THL の The Dissertation Database のそれをはじめ、検索されたデータベースにおける対象論文の把握収集方法、登録基準等の踏み込んだ調査を継続してまとまった知見として報告することを、本項他の課題事項の進展状況とともに、次報以降の課題とする。

### ③把握・収集・調査・登録作業の共同化、プロジェクト化

そして何より、移管後もなお筆者が抱え込み、個人作業を続けてきてしまっている、把握・収集・調査・登録作業の共同化、プロジェクト化を進めなければならない。これがなければ、WAN への移管はデータベースの置き場の引っ越しを越えない。具体化、着手を要する喫緊の課題である。

## 7. おわりに

WSGSDDDB に集積された博士論文の情報を通じて、日本の WG/GS の 40 年間の動向の一面を提示した。前項に記した活用可能性の拡大と課題の解消の進捗状況報告ともども、今後も本ジャーナル上への、博士論文データベース発の、WS/GS の可視化を継続していく。

## 文 献

Department of Women's and Gender Studies, college of Arts and Sciences, University of South Florida (USF) : Women's and Gender Studies Theses and Dissertations.

[https://scholarcommons.usf.edu/wst\\_etd/](https://scholarcommons.usf.edu/wst_etd/) (閲覧日 2018 年 9 月 30 日)

Research gateway for Women's Studies, Colorado State University (CSU) : Dissertations and Theses. Women's Studies. <https://libguides.colostate.edu/c.php?g=65046&p=416690>

(閲覧日 2018 年 10 月 7 日)

Syracuse University Libraries (SU) : Women's & Gender Studies: Dissertations.

<http://researchguides.library.syr.edu/c.php?g=258189&p=1724221>

The Department of Women's, Gender and Sexuality Studies at The Ohio State University (OSU) : Dissertations and Theses..

<https://wgss.osu.edu/graduate/dissertations-and-theses> (閲覧日 2018 年 9 月 30 日)

The Department of Women's Studies and Feminist Research, Western University (UWO) : Women's Studies and Feminist Research Theses and Dissertations.

<https://ir.lib.uwo.ca/womens-ethd/> (閲覧日 2018 年 10 月 7 日)

The Digital Repository at the University of Maryland (UM) : Women's Studies Theses and Dissertations. <http://hdl.handle.net/1903/2809> (閲覧日 2018 年 10 月 7 日)

The National Institute for Health and Welfare (THL), Finland : The Dissertation Database. <https://thl.fi/en/web/gender-equality/what-s-new/dissertations>.

- (閲覧日 2018 年 9 月 23 日)  
UCLA Library: Gender Studies, Dissertations.  
<http://guides.library.ucla.edu/c.php?g=180210&p=1625196>  
(閲覧日 2018 年 10 月 7 日)
- Women's Studies, College of Literature, Science, and the Arts, University of Michigan  
(U-M) : Dissertation Titles.  
<https://lsa.umich.edu/women/alumni-friends/dissertation-titles.html>  
(閲覧日 2018 年 10 月 7 日)
- University of Washington Libraries (UW) : Gender, Women & Sexuality Studies.  
Dissertations. <http://guides.lib.uw.edu/c.php?g=341735&p=2299649>  
(閲覧日 2018 年 10 月 7 日)
- 赤司 秀明 : 学際研究のための基礎的研究の必要性. 学術の動向. 1(6), 1996 :  
77
- 池田 光穂 : 超領域研究機関の構想に関する基礎研究. 1997,  
<http://cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/forum97.html>
- 大場 淳 : 学際性の進展とその影響. 大学研究. 19, 1999 : 181-199
- 国立国会図書館 : リサーチ・ナビ 海外博士論文 (インターネット情報源) .  
[https://rna.ni.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/post-335.php#kanren](https://rna.ni.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-335.php#kanren)  
(2018 年 2 月 21 日更新、閲覧日 : 2018 年 9 月 23 日)
- 国立国会図書館 : 国内博士論文の収集.  
<http://ndl.go.jp/jp/collect/hakuron/index.html> (閲覧日 : 2018 年 9 月 22  
日)
- 国立国会図書館関西分館 : 国立女性教育会館情報課を通じたレファレンスの  
回答 (2018 年 9 月 21 日).
- 辻 京子 : 児童虐待問題への経済階層とジェンダーの視点からの研究. 2017,  
<http://repo.lib.tokushima-u.ac.jp/ja/110055>
- 内藤 和美 : 女性学/ジェンダー研究博士論文データベースをつくる. NVEC 実践  
研究. 4, 2014 : 144-157
- 認定 NPO 法人ウイメンズアクションネットワーク : WS/GS 学位論文データベー  
ス. <https://wan.or.jp/hakuron/search/>
- 文部科学省 : 学位規則の一部を改正する省令の施行について. 2013,  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/daigakuin/detail/1331790.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigakuin/detail/1331790.htm)  
(閲覧日 : 2018 年 9 月 22 日)